



子どもたちだけで1年間田舎暮らしが体験できる「山村留学」を行っている上美生地区に児玉さんご夫婦が移住されたのは2010年。

哲也さんは東京都出身。都心ではなく自然が多いあきる野市で育った経緯もあり、16歳の頃バイク一人旅をして気に入った北海道にいつか住みたいと心に決めていたそうです。そして2004年、隣の音更町に仕事を見つけ家族で町内の社宅へ住むことに。この頃長男の悠人(はると)くんはまだ未就学児でしたが、「小学校に上がるタイミングで農村部に住みたい」と週末ごとに十勝管内をドライブし、土地探しに奔走する日々が続いた末、2010年の12月に上美生地区に移り住みました。

この地区を選んだ理由は豊かな自然の中で生活を満喫でき、子どもが歩いて行ける距離の小中学校と必要最低限の環境があり、移住者も多い土地柄だったから。とはいえ自宅の完成までに思わぬ時間がかかり、当初の目的だった悠人くんの小学校進学の前4月に間に合わず、役場や学校の協力を得ておおよそ8ヶ月間、音更町から上美生小学校まで悠人くんの送迎の日々が続いたそうです。

ご夫婦の夢は「北海道をゆっくり旅すること」。いまは哲也さんの手作り(!)キャンピングカーで北海道を家族でゆっくりとまわることが増えたそうです。

移住希望者からよく受ける質問はやはり仕事や子育てのこと。「まずは考えるより思い切って行動してみてもいい。僕でよければ相談に乗りますよ」と哲也さん。芽室町ハローワークを利用しながら、まずは住んでみて地元住民とのふれあいを楽しんでみるというのも一つの選択肢かもしれません。



哲也さんは東京都あきる野市出身、純恵さんは室蘭市出身。長男の悠人くん(16歳)、愛犬のボン(9歳)の3人1匹の家族。



ご夫婦ともに札幌市出身。2018年から移住。千里さんの母、叔母、長女夏歩ちゃん(4歳)、次女侑奈ちゃん(1歳)の6人家族。



芽室町の住宅地にある入口のブランコが目印の「cafe BLANCO.(カフェブランコ)」は、札幌市から芽室町へ移住された橋本千里さんが営む、地元食材を使ったメニューが人気のカフェ。店内のテーブルやインテリアなどは、現在木工を勉強中の夫の佳裕さんが製作し、やさしく居心地のよい空間に包まれています。

ご夫婦が十勝に興味を持たれたのは、結婚前の2010年から。千里さんが好きな星空観察のため、陸別町の天文台にふたりで毎年通うたびに十勝の風景や、地元の人たちの人柄の良さに惹かれ、2014年の結婚を機に移住を考えるように。その後、長女が生まれた翌年の2017年から居住地を探すようになりましたが、お互い札幌生まれの札幌育ちのため、十勝の知り合いも情報もなく、全くのゼロからのスタートでした。

十勝のどこに住もうか、管内の町をいくつかまわり移住候補地を探していた頃、札幌への帰り道で芽室町大成地区の畑が広がる風景が目に入り込んできて夫婦で「この町がいいね」と芽室町に住むことを決意。最終的には保育所など利便性も考え2018年、現在の芽室町の市街地に落ち着いたそうです。

現在、カフェは千里さんとお母さんが運営していますが「もともと考えることが大好き」な千里さん、今後はカフェを拠点に、イベント開催など、ご自身の豊富な経験からたくさん楽しいことを発信していきたいと話してくれました。

「芽室町に移住を希望される方は、お気軽にカフェまでお越しください」とご夫婦からの優しいメッセージも。移住へのプロセスや独立開業のお話など、カフェメニューをいただきながら会話を楽しんでみませんか。

INTERVIEW

移住者さんに聞いてみました

児玉 哲也さん(48歳)・純恵さん(47歳)



橋本 千里さん(33歳)・佳裕さん(32歳)

